1

『花月草紙』松平定信

《く》…くすし　《男1》…最初の男　《男2》…いまひとりのをのこ

くすしの予見

あるくすしが『君は必ずこん秋の頃、何ぞのいたづきにかかり給はん』といふを、

病気になることを予見

《男1》むづかりて、『いかでさることあらん』と、秋まではいひぬ。つひに、いたづきにかかりてければ、『いひあてしくすし』にあはんも、おもて伏せなり』とて、

↑本当に病気に…

↑不機嫌になる

よそのくすし招きてけり。

《く》さまざま薬与へたるがしるしも見えず。

重要　効き目

言い当てたくすしに会うのは、自分としても面目ないので、別の医者を頼る

《く》初めのほどは、『うちのそこねしなるべし』とて、うち整ふる薬なりければ、

《男1》胸のあたりいよいよ苦しく、ものも見いれねば、くすしも心得て、その薬はやめつ。

『こたびは汗にとらん』としても、しるしなく、『下さん』とすれば、

《男1》腹のみ痛みて、いよいよ苦し。

どうしようもない

《く》せんかたなくて、試みにふとてうぜし薬、その病にあたりやしけん、

いろんな薬を試すがなかなかうまくいかない

《男1》飲み下すより、胸のうちここちよく、つひにその病癒えにけり。『命助けし人なり』とて、『家傾けても報いまほしく思ひし』となり。

試しに調合した薬のおかげで回復

古文の指示語（それ、そう、その…）

さるに、それなのに　逆接

《く》『こん秋は、必ずこの病出づべし。この薬今より飲み給へ』といふを、

病になった男は、病を言い当てた医者に感謝せず、治してくれた医者に感謝した。

《男2》いまひとりのをのこ、『いかでさあらん、されどさいひ給はば、飲みて参らすべし』とて、ひとごとのやうに飲みゐたるが、つひにその病もおこらず。常に変はりしことなかりしかば、『さればこそ、かくあるべし』と思ひしを、

半信半疑で薬を飲んだ別の男は病気にならなかった

《男2》『あの薬飲までもあるべきものを』といひしとや。

医者の言うことを聞いて薬を飲み、病にかからなかった男は、薬を飲まなくてもよかった、と言った

13　いるはずのない鬼　『蒙求』李翰

漢文で「少ない」はこの字を使います。

［書き下し文］

晋の阮瞻字は千里、
始平の太守咸の子なり。
性清虚寡欲にして懐に自得す。
書を読むに甚だしくは研求せず。
而れども黙して其の要を識る。
理に遇ひて弁ずるや、
辞足らざれども旨余り有り。〈中略〉
瞻素より無鬼論を執り、
自ら謂へらく、
此の理以て幽明を弁正すべしと。
忽ち客有り名を通じ瞻に謁す。
瞻之と言ひ、
良久しうして鬼神の事に及び、
反覆甚だ苦む。
客遂に屈す。
乃ち色を作して曰はく、
「鬼神は古今聖賢の共に伝ふる所にして、
君何ぞ独り無しと言ふを得ん。
即ち僕は便ち是れ鬼なり。」と。
是に於いて変じて異形と為り、
須臾にして消滅す。

ここでは みずから

おも(えらく)

たちま(ち)

この「は」が大事!!

パンダのテキスト P.44, P.46の下段

すなわ(ち)

「ん」「んや」＝反語

ここ(に)お(いて)

しゅゆ(にして)

［現代語訳］

晋の阮瞻は字を千里と言い、始平の太守、阮咸の子である。

あざな＝成人すると持つ呼び名

性質は心清らかで欲がなくて心中（今の生活に）満足していた。
書物を読むにしてもそれほどには究め求めなかった。
しかし、黙っていてもその要点は把握していた。
道理にあって論じると、（説明の）言葉は足りないけれども（その論の）主旨は（人々を納得させるのに）余りあるものであった。〈中略〉

阮瞻は日ごろ無鬼論をとり、自分で思うに、この論理（自分の無鬼論）でこの世とあの世を弁論して正すことができると。

（ある日）突然来客があり、名を告げ瞻と会った。
阮瞻はその客と話し、しばらくして（話が）鬼神のことに及ぶと、何度も説明することにたいそう努めた。
客はその結果屈してしまった（言い負かされた）。
そこで（客が）顔色を変えて言うことには、
「鬼神は古今の聖賢がともに（その存在を）伝えるものであり、あなたがどうして一人だけ鬼神がいないと言うことができようか、いやできない。
とりもなおさず僕がいかにもその鬼である。」と。
そこで（客は）姿を変え異形の者となり、たちまち消えてしまった。

1

問1　文法　二重傍線部A・Bの助動詞を文法的に説明せよ。　各4点

A　完了の助動詞「つ」連用形

B　過去の助動詞「き」連体形

問2　文脈　右の文章を、内容から二つに分けるとすれば、後半はどこから始まるか。その初めの五字を抜き出して書け。（句読点は一字に数える。）　6点

さるに、こ

問3　解釈　傍線部①を現代語訳せよ。　7点

反語

どうしてそのようなことがあろうか。いやない。

問4　内容　傍線部②は、どういうことか。最も適切なものを、次の(ア)～(オ)の中から選んで、符号で書け。　7点

(ア)　病人の目が見えなくなったこと。
(イ)　病人の苦しむ姿を見ていられないこと。
(ウ)　病人が食べ物に見向きもしないこと。
(エ)　病人を医者が診察してくれないこと。
(オ)　病人が何かにとり憑かれてしまったこと。

ウ

問5　内容　傍線部③は、どのような気持ちの表れか。最も適切なものを、次の(ア)～(オ)の中から選んで、符号で書け。　7点

(ア)　病気を言い当てた医者への畏敬の気持ち。
(イ)　調合した薬の効果に対する驚きの気持ち。
(ウ)　病気を予見した医者を信頼する気持ち。
(エ)　病気を治してくれた医者への感謝の気持ち。
(オ)　医者の予見を無視したことを悔いる気持ち。

問6　指示　傍線部④「さ」の指す内容を、右の文章の中から十字以内で抜き出して書け。　7点

この薬今より飲み給へ

エ

問7　主題　病気にならなければ予防や対策を真剣に考えない人間心理を最も端的に表している部分を、右の文章の中から三十五字以内で抜き出して、初めと終わりの三字ずつを書け。（句読点は一字に数える。）　8点

されば～ものを

Part to Win　古語サポート　入試対策古語

問　傍線部ⓐの最も適切な解釈を選べ。　2点

○おもて伏せなり
(ア)　不健康である
(イ)　不名誉である
(ウ)　不利益である
(エ)　不愉快である

イ

Part to Win　文法サポート　入試対策演習（助動詞①）

問1　次の傍線部を文法的に説明せよ。　4点

○「いよいよ継子の徳をなむ見る。さ知り給へれ。このあんなる子ども、ゆめゆめ憎み給ふな。…」

存続の助動詞「り」命令形

問2　次の傍線部を現代語訳せよ。　4点

○ただ人には、げに惜しかりぬべき人がらにぞおはする。

きっともったいないに違いない人がら

「ぬ」は強意

13

問1　語句　二重傍線部A・Bの読みを書け。　各5点

A　もと　より　B　やや

問2　語句　二重傍線部Cのここでの意味として最も適切なものを、次の(ア)～(オ)の中から選んで、符号で書け。　5点

(ア)　怒る　(イ)　こびる　(ウ)　青ざめる
(エ)　驚く　(オ)　喜ぶ

ア

問3　訓読　傍線部①を、空欄□に適切な送りがなを補って書き下し文にせよ。　6点

甚だしくは研究せず。

問4　内容　傍線部②は、どういうことか。最も適切なものを、次の(ア)～(オ)の中から選んで、符号で書け。　7点

(ア)　自分の考えを、適切な言葉で表現できなかったということ。
(イ)　要点をおさえた端的な弁論で、無駄がなかったということ。
(ウ)　発言を辞退して、意見を述べようとしなかったということ。
(エ)　言葉は足りないが、論旨は十分に人を納得させたということ。
(オ)　口数は少なかったが、要旨は十分に理解していたということ。

エ

問5　指示　傍線部③「此理」は、何の理か。わかりやすく書け。　6点

死んだ人の霊などはいないという道理。

問6　解釈　傍線部④を、省略された語を補って現代語訳せよ。　7点

あなたがどうして一人だけ鬼神がいないと言うことができようか。いやできない。

問7　主題　右の文章のおもしろさはどのような点にあると考えられるか。最も適切なものを、次の(ア)～(オ)の中から選んで、符号で書け。　9点

(ア)　議論好きの阮瞻が、どんな相手であっても議論を拒まず、訪れた鬼も歓待して議論し、鬼を満足させた点。
(イ)　鬼神に対する尊崇の気持ちが強い阮瞻に感心した鬼が、彼のもとを訪れ、自分が鬼であることを明かした点。
(ウ)　自分に道理があると思うと、相手がだれであっても議論する阮瞻が、鬼を相手に議論を始めてしまった点。
(エ)　ふだんから鬼神を憎んでいた阮瞻が、鬼との議論を通して憎しみをいっそう募らせ、ついに鬼を消滅させた点。
(オ)　鬼神はいないというのが持論であった阮瞻が、訪れた鬼と議論して、ついには鬼までも言い負かした点。

本文にない

オ

Part to Win　漢字サポート　入試対策漢字

問　傍線部ⓐ「自」・ⓑ「謂」・ⓒ「与」の読みを、送りがなも含めて書け。現代かなづかいでもよい。各1点

ⓐ　みずから　ⓑ　おもえらく　ⓒ　と

Part to Win　句形サポート　入試対策演習（否定形①）

問1　傍線部を書き下し文にせよ。（訓点は省略してある。）　3点

○会心処不必在遠。
心にかなうところは

必ずしも遠きに在らず。

問2　傍線部を書き下し文にし、かつ現代語訳せよ。　各2点

○遂迷不復得路。

復た路を得ず。二度とは道を見つけられない。

正解　(ア)　老荘（道家）思想は、人為を否定して、自由な生き方を説く思想。